

ライフケアガーデン湘南 特定入居

症 例 概 要 利用者氏名：TA様（80代 男性 要介護5）

利用期間：平成29年3月～現在

経過：

既往歴：慢性硬膜下血腫・白内障・緑内障・高血圧・前立腺がん（治療中）

傷病名：外傷性くも膜下出血・II型糖尿病・脳血管性パーキンソニズム

要介護5で全介助状態であったが、入居3ヵ月で車椅子移動まで可能になり、コミュニケーションも活発になった。入居前の相談時点では想像もつかった、TA様本来の姿に近づくことができ、なによりもご家族から深い感謝のお言葉をいただいた。

内 容

H29年2月に自宅庭で転倒。尿路感染と診断。F病院へ入院となる。要介護5の全介助状態で、入院中のリハビリもご本人のモチベーション低く継続できていなかった。ご家族の「リハビリと生活環境が充実していれば、明るく冗談ばかりいう元気なお父さんが帰ってくるはず!」との強い要望に応えるべく、LCG湘南へ3月に入居。入居前の状態は…

- ・食事介助必要。1～2割の摂取。
- ・移乗は二名対応必須。
- ・立位保持は不可。座位も背もたれ等があつて最大1時間程度。
- ・2時間おきの体交
- ・表情変化に乏しくコミュニケーションとりづらい

【ご入居後】

看護・介護・リハで「絶対に寝たきりにしない」を意識しケアに当る。リクライニング型の車椅子を新規に用意し、ご本人の意思を尊重しつつも常にデイルームで過ごせるように、こまめな移乗を実施すべく常に二名体制で当れるシフトを組む。やる気を出してもらうために、軽く長続きするリハビリメニューをリハが調整し、事務や栄養士も声かけを徹底した。

LCG湘南において特別な対応は無かったが、日々実施すること、すべきことを最確認し、徹底して“背心豊かな生活環境”を提供した。

【ご入居2ヵ月】

背もたれ無しでの座位が取れるようになる。は背もたれの低い車椅子を使用し、よりリハビリを意識する。ご入居3ヵ月を経過したあたりから、ついに車椅子をご自身で操作されるようになる。

【現在】

もともとお体が大きいため、お一人での車椅子移乗はできないが、移乗介助後は自走でダイルームへ毎日こられ、他ご入居者様とコミュニケーションをとられている。

いまでは日々冗談ばかりでご入居者や職員を笑わせてくれるフロアのムードメーカーとなった。ご家族様の語られた“お父様本来の姿”に確実に近づけたと言える結果である。

食事の摂取量も全量となり、今後はより活動範囲を広げるべく、リハビリ強化とレクへの積極的なお誘いに注力するものとする。